dual wish

宮野やしろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ｄｕａｌ　ｗｉｓｈ

【Ｎコード】
Ｎ６４３４Ｉ

【作者名】
宮野やしろ

【あらすじ】
主人公の藤坂秀一は、ごく普通の男子高校生。
が、ある日見た夢をきっかけに、彼の中に大きな動揺が生まれる。
さらに夢を見る前日、秀一は”ある現場”を目撃していた。
それらの出来事を誰にも相談できないままの秀一。
だが、ある人物との接触によって、物語は大きく動き出す。

プロローグ

みんながあたしを呼ぶ。
あたしの名前を呼ぶ。
・・・ううん、違う。それはあたしの名前じゃないの。
それは”あの子”の名前なの。

「綺羅(きら)、今日一緒に帰ろうよ！」

「諏訪園(すわぞの)さん、今度の委員会でさ・・・」

分かってる。所詮あたしは”あの子”でしかない。
どんなに願っても、あたしはみんなに気付いてもらえない。
ここに居るのに、あたしはここに居るのに！！

・・・そういえば、1人だけあたしを見つけた人が居た。
”ナギ”・・・あたしが一番嫌いな人。
あたしを一番認めようとしない人。
だからあたしもナギが嫌い。

結局あたしはひとりぼっち。
ねぇ　誰かあたしを呼んで。
あたしの本当の名前は・・・

夢の終わり

「待って、諏訪園さんっ！！」

ガバッ顔を上げると、そこにあったのは

「藤坂、わしの授業はそんなに退屈か？」
古文の西尾先生の満面の笑顔だった。周りからはクスクスと笑い声が聞こえる。
訳が分からずふと視線を落とすと、ヨダレでぬれた書きかけのノートと教科書。
どうやら僕は、授業中に寝ていたらしい。

「藤坂、ちょっと廊下に立ってなさい。」
そう言われた僕は、まだぼんやりしてる頭で教室を出た。
11月の半ばにもなると、廊下の寒さも最高潮。でもそのおかげで、だいぶ頭も冷えてきたみたいです。

あ、自己紹介が遅れました。
僕は藤坂秀一（ふじさかしゅういち）。ごく普通の高校1年生です。みんなからは秀って呼ばれてます。
・・・それにしても、さっきはお恥ずかしいところをお見せしました／／／
普段は居眠りなんかしないんですよ、本当に！
しかも変な夢まで見ちゃって。

「ピィーッ集合ー！！」
ふと聞こえたホイッスルの音。僕の視線は、自然と窓の外に向けられていた。

グラウンドでは、隣のクラスが体育をしている。
その中には、諏訪園さんも居た。
諏訪園綺羅（すわぞのきら）。父親が総合病院を経営している、お金持ちの家の1人娘。
彼女は学校のマドンナで、男子からも女子からも人気がある。
性格良し、ルックスも良し。頭良し、運動神経も良し。
彼女の悪い噂は聞いたことが無い。
いつも笑顔で明るくて、清楚なイメージ。そう思ってた。
・・・昨日、あの現場を目撃するまでは。

彼女の矛盾

それは、昨日の放課後のことだった。
僕は、誰もいない教室で1人試験勉強に励んでいた。
時計に目をやると、時刻はもうすぐ6時になろうとしていた。

「・・・今日はこれくらいにして帰ろうかな。」

早々に教科書やらを片付け、教室を出た僕。その時・・・

『・・・き、好きだよ、ナギ』

隣の教室から、女の子の声。僕以外にも残ってる人がいたのか。
ほんの出来心で、僕はわずかに開いていたドアの隙間から中を覗き見た。
・・・それは、まるでドラマのワンシーンのようだった。
諏訪園綺羅が、”ナギ”っていう男の人と抱き合って・・・キスしてた。

一瞬自分の目を疑ったけど、それは間違いなく諏訪園さんで。
僕は別に諏訪園さんを好きな訳ではないけれど、あまりにも普段の彼女との
イメージがかけ離れていたから・・・驚いた。
ドクドクいるさい左胸を押さえながら、僕は学校を後にした。
それから、さっきのは見なかったことにしよう。そう自分に言い聞かせた。

・・・とは言っても。
やっぱり昨日の今日で忘れられるような問題ではないようで。

おかげで昨日勉強した内容はほぼ忘れたし、変な夢は見るし。
・・・ん？夢？
そういえば、さっき見た夢の中じゃ、彼女は”ナギ”さんを嫌いって言ってなかったか？
まぁ、僕の夢にどれほどの意味があるか分からないけど・・・。
ますます訳が分からなくなって、フゥ・・・とため息をついた時、
誰かが僕の肩を叩いた。
振り返るとそこには、見知らぬ男の子の顔。

「？何か僕に用ですか？」

その人は、僕の問いかけには答えずに、ただ一言

「見ただろ？」

と質問に質問で返してきた。・・・見た？何を？
必死に思考を凝らしていると、ひとつ思い当たる節が浮かび上がってきた。

「あ・・・っ」

僕がそう言った瞬間、目の前の少年に腕をひっぱられて、

「ちょっと来て。話がしたいんだ、君と。」

そう言われて、廊下を早足に歩いていた。
その間僕は、昨日あの現場を見てしまったことを酷く後悔していた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6434i/

dual wish

2010年10月20日17時52分発行